

「ワンデーポート通信」 第251号 2021.7

ギャンブルの問題がある人のための
ケアセンター

＜発行＞ 認定NPO法人ワンデーポート
〒246-0013 横浜市瀬谷区相沢4-10-1
クボタハイツ101

HP <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>

TEL: 045-303-2621

E-mail oneday.yokohama@knd.biglobe.ne.jp

FAX: 045-303-2629

2021年度・ワンデーポート入所初期費用(1ヶ月)給付金のお知らせ

昨年に引き続き東京パチンコボランティア基金より、ワンデーポートへの新規利用者(入所者)を対象にした給付金助成制度(1人5万円～15万円)が運用されています。

ワンデーポートへの入所カリキュラム1ヶ月を無料で受けることができます。

15万円の用途の内訳(例)

寮費(家賃)	50,000円
布団購入など初期生活費	20,000円
食費、生活費 2千円×30日	60,000円
レクリエーション等の費用	15,000円
衣服代、その他	5,000円

以下のような方を対象とします

- ・ パチンコや競馬などのギャンブルに問題を感じている方(ギャンブル依存症であるか否かは問いません)
- ・ 病的に依存しているわけではないが、コロナウイルスの影響で生活維持が困難になっている方
- ・ ゲーム依存やネット依存などの方

助成金の上限人数 総額100万円に達した時点で終了となります。

生活保護を受けている方など対象とならない場合もあります。詳細はお問合せください。

問い合わせ 045-303-2621 (認定NPO法人ワンデーポート)

助成 東京パチンコボランティア基金(東京都遊技業協同組合青年部会)

協力 認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク

お世話になっている方へのインタビュー企画
(今回はオンラインでインタビューしました)

株式会社セントラルカンパニー

代表取締役 力武一郎さん

今回は、ワンダーポートの開設直後からお世話になっている力武一郎さんにお話を伺いました。力武さんは、大分県でパチンコ店やボウリング場、飲食店などを経営されています。

90年代パチンコ店の駐車場で熱中症の事故が多発した際、力武さんは依存問題が大きな課題だと思ったそうです。あるとき、ホールに設置していた投稿箱に「1日で年金を取られた。こんな苦しい生活…借金もする」といった声が寄せられました。2000年頃、これは何かしなくてはいけないと思い、世界の依存対策を調べたら、カジノ経営企業ハーラーズ・エンターテイメント社が、「全米ギャンブル問題対策審議会 (The National Council on Problem Gambling and Affiliated State Council)」のメンバーとして、24時間体制の無料電話相談制度を立ち上げていたことを知ったそうです。しかし、当時はパチンコ業界内で依存問題に対する取り組みは手つかずの状態でした。そこで、ワンダーポートに電話をされたそうです。ワンダーポート開設直後のことです。それ以来のお付き合いです。パチンコ業界が2006年に立ち上げたリカバリーサポート・ネットワークは、力武さんが声を上げたことがきっかけになっています。

力武さんから教えてもらったこと、気付いたこと

中村 力武さんとは、何年に一回かくらいしかお会いすることがありませんが、インタビューをお願いするのは2012年に私が大分にうかがって以来になります（その対談は株式会社セントラルカンパニー内のウェブサイトで見ることができます※1）。

力武 私が依存問題に取り組みだしてちょうど20年経過しますが、2012年の対談を今読んでも古ぼけた感じはしないです。中村さんも私も、考え方は変わってきていますが、現場に沿ったものになってきているのかなと思います。

中村 私は、ワンダーポートで出会う人から学んでいて、どう関わればよいか考えています。それは力武さんも同じではないでしょうか。よく力武さんは「うちの従業員にこんな人がいる」とかおっしゃっています。人を見て仕事をされていることを実感します。ワンダーポートの初期に力武さんがセミナーに参加した頃、ワンダーポートの利用者の体験談に関心を持っていただきました。あちらこちらで開催したワンダーポートのセミナーに力

ートで出会う人とは違う人が多いということがわかりました。否認の病気ではなく、進行性の病でもなく、自助グループや回復施設を利用しなくても自己解決している人がたくさんいることがわかりました。ワンダーポートはギャンブルに問題がある人の一部分しか見えていなかったのだと気づきました。20年前に力武さんが考えた「パチンコは適度に楽しむ遊びです」という言葉は、パチンコホール内での予防や対策にはとても適していると時間をかけて知りました。いま全国のパチンコ店で今も掲示されていることを考えると、力武さん視点、目の前の人から知ることの大切さを改めて実感します。依存問題の(地域)連携が国で課題になっていますが、私たちのような連携はあまり知られていないように思います。

力武 目の前の人を一人ひとり見ていくと、100人いれば100人の問題があることに気がつきます。「依存症は病気である」とパターン化すると問題が見えにくくなります。人間はそれぞれ境遇も特性も違います。パターンにはめると当事者にとってつらいことになります。

依存問題が国の対策になって

中村 力武さんと出会って、10年、15年と経過し、個別の問題だと確信したときに、IRに起因して依存問題が国策になりました。制度で扱うことは、パターン化することであり、個別化とは別方向に向くわけです。力武さんと出会ったときにワンダーポートが主張していた医療機関への受診や自助グループ参加の推奨は国策になっていますが、力武さんの目からはどう見えますか。

力武 私の依存問題の取り組みは、当事者のためになっているかどうかはすべての尺度です。「依存症は病気です」というワンパッケージでやってしまうと、当事者のためにならないです。それは20年間の活動で気づいたことです。だから取り組み方が変化してきていると思います。多くの依存問題にかかわる機関が、変化できない理由は、それぞれがそこ(依存問題)に居場所を見つけてしまったからではないかと思います。そうになると、やり方を変えることに人は抵抗します。私が大切にしているのは現場を見て違和感を感じ取ることです。一人ひとりを見ていけば、「昔はミーティングが有効だったけれど、今はミーティングしても全然変わらない人がいるな」というように、中村さんも違和感を覚えたと思います。そういうことは私の現場でも思うことです。昔は真正ギャンブラーみたいな人ばかりでした。負けたら怒りを従業員にぶつけて来る人がたくさんいました。今はホールの雰囲気はだいぶ柔らかくなっています。

中村 90年代前後は、一発台※2のコーナーはオジサンたちが殺気立っている雰囲気がありました。今はそうではないわけですね。

力武 当時、真正ギャンブラーの人たちは命がけでパチンコをしているように見えました。

1円パチンコ※ができてから随分雰囲気は変わりました。今は逃げ場があるので、そこがすごくいいなと思います。

中村 マスコミは、ひと昔前のギャンブラー像の体験談を伝えますが、今のホールにはあまりいないわけですか。個々を見ていかないと、今の当事者に必要なことが見えなくなってしまうということですね。

力武 昔は啓発が必要だと思っていましたが、今は広く予防を発信することだと思っています。今のお客様は問題があっても深刻化する人はごく一部だからです。遊び方をよく理解したり、ライトにやりましょうと伝えることが大事だと思います。一貫して「パチンコは適度に楽しむ遊びです」と伝え続けてきた部分は変わっていません。

中村 力武さんは大分県のギャンブル等依存症対策推進協議会の委員ですが、会議の中では、個別性や社会の変化、予防の話はどう理解されていますか。

力武 1回目の会議のときに、色々なことを伝えました。ぶしつけに映ったと思いますが、当事者のためにならない対策はダメだと思うのです。

中村 力武さんのおっしゃる当事者というのは、その会議に参加している当事者ではなく、社会の中、パチンコホールの中にいる当事者全体ですね。私も内閣官房と横浜市の対策会議に出席していますが、当事者をもっと広くイメージしてほしいいつも感じています。

力武 少し取り組み方が偏重している気がします。依存問題として顕在化していますが、潜在的には日本社会に横たわる大きな問題が隠されています。徐々に普遍的な活動にしたいと思っています。国の指針に対してどうやって私たちの考え方を理解してもらうのがテーマだと思います。

仲間と出会い、孤独から解放される「ぬくもりコール」

中村 最近、パチンコホールの経営以外にもいろいろとやられているようですね。

力武 高齢者向けのリハビリデイサービス事業をはじめました。発達障がいについても興味があるので、障がい者支援もやりたいと思っています。孤独や生きづらさを解消するお手伝いがないかと思います。日本は病院で亡くなる人の比率が高いです。欧米は自宅で亡くなる比率が高いです。少子高齢化が進んでいて、これからは在宅でいつまでも元気に過ごしたいという人が増えてくると思います。そのお手伝いがしたいと思い、リハビリ事業をはじめました。介護の現場の人と話をすると、特別養護老人ホームに行ったら手遅れだと言います。車椅子で全てにおいて介助が必要だからです。その前の段階の取り組みいかんで、心身ともに健康で長生きできるのだと思います。長生き寿命がイコール健康寿命にならなくてはいけないと思います。依存問題もそうだと考えていて、ひどくなる前に、「このままではいけない」と軌道修正をご本人ができることが大切だと思います。

ワンデーポートの活動を見てギャンブルにハマってしまう人は、人付き合いの苦手な人

が多いということを知りました。ワンダーポートに来て仲間といろいろなことをやりますよね。ウォーキング、マラソン、ボウリングをして人とつながり、余暇の過ごし方がパチンコ以外にもできるわけです。それはすごくいいなと思います。先だって発表された都留文科大学の早野慎吾先生の調査研究に共感しました。早野先生の研究では地方都市における問題点が、余暇、娯楽の少なさ、そして孤独感だと言われていることが、私の中でワンダーポートの取り組みと繋がりました。孤立していて、寂しいと思っている段階で電話してもらい、趣味のサークルとかにつながるといいなと思います。そのお手伝いをする事業が「ぬくもりコール」※4です。高齢化、発達障がい、引きこもり、そして依存の問題は社会全体に共通した孤立の問題だと思います。依存問題として顕在化していることでも、日本社会の普遍的なテーマだと思います。国でどのように解決していくのかということ考えたときに、初期の段階で、軌道修正ができるような社会的システムが必要だと思います。

中村 問題行動の一つひとつ名前を付けて障がいを増やしたり、制度を増やしたりしていますが、人とつながることや、楽しく生きるということが抜け落ちてしまっているような気がします。「依存症は孤独の病」と言われていて、孤独から解放されるためには自助グループや回復施設とされています。たしかに、そこで孤独から解放される人もいますが、それはほんの一握りです。人間関係が苦手な人が、5人、10人というグループに入ると、より孤独感に苛まれるのがふつうです。孤独感は相対的に強まると思うので、自助グループに行ってもより孤独になる人は多いと思います。それよりも、その人が好きなことの仲間、やってみたいことがあれば、その仲間との出会いをサポートするのはとても大事だと思います。仲間は1人の友人でも良いと思います。グループでなくても出会いがあれば良いと思います。ぬくもりコールのようなシステムがあれば、名前のついている「依存症対策」よりも効果があるかもしれません。

力武 一人ひとりのペースでできることが大事だと思います。大分県で行政提案をさせていただいていますが、理想は大分県で始めてもらい、徐々に広げていくことですが、今はコロナで行政もマンパワーが割けないと言う問題もあります。

中村 力武さんの提案は、地域のネットワークづくりとも言えると思いますが、国の基本計画でも地域のネットワークづくりが必要とされていますが、国が考えているネットワークとは違うと思います。依存問題を越えたネットワークでないと助かる人は少ないのではないのでしょうか。

力武 私もそう思います。日本の幸福度ランキングは低いですよ。それが上がれば良いと思っています。65歳以上の人口が直に3分の1になる先進国は日本だけです。本質的な国づくりとも関係する問題だと思います。そのためには人とのつながりが必要です。ゆるくつながっていることが良い人もいれば、強くつながることが良い人もいます。人との

つながりは人間の幸せを計る上で一番大事なことだと思います。楽しみや生きがいも必要です。

中村 依存問題について考えていくと社会全体の課題に行きつくことは私もなんとなく感じていましたが、力武さんの話をうかがい、確信を得たような気がします。私たちの考えに共感してくれる人はいるはずですから、仲間を増やして、地域連携による依存対策と一緒に推進していきたいと思いました。今日はありがとうございました。

※1 株式会社セントラルカンパニー <http://www.cp-centralpark.com/onedayport/>

※2 特定の入賞口に玉が一発入れば、4,000 発や 5,000 発など定められた玉が出るゲーム性の機種

※3 1玉1円で玉を借りて遊技するパチンコ。通常は1玉4円。

※4 次頁に掲載

プロフィール

力武 一郎（りきたけ いちろう）

株式会社セントラルカンパニー代表取締役社長。昭和 38 年生まれ。昭和 61 年日本大学卒業。同年、株式会社セントラルカンパニー入社。ぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」理事。

問題点に勇気を持って取り組んでこそ本物の産業という持論をもとに「ぱちんこ依存問題」へ取り組む。2002 年 4 月 11 日、全国で初めてパチンコ団体が主催する依存問題セミナーを大分市で開催する。2003 年 1 月 26 日、パチンコ関係者として初めて「ワンデーポートフォーラム IN 福岡」に出席。ギャンブル依存症者、その家族、医療関係者の前でその活動の歩みを止めないことを宣言した。この取り組みは、様々なメディアで紹介され業界内外から注目を集めた。

「ぬくもりコール」の提案

株式会社セントラルカンパニー

代表取締役 力武一郎

先日「都留文科大学研究グループによるギャンブル等依存の要因およびギャンブル射幸性に関する全国調査」が発表されました。その中で、都市部ほどギャンブル等依存率は低くなる傾向にあり、地方都市の問題点として、地域に他の娯楽が見つからないことでギャンブルにのめり込み「やらないと落ち着かない」状態になる。また、現代社会が孤独感を助長して、その孤独感を解消するためにギャンブルにのめり込むとしていました。

「今、地域社会で必要なことは、娯楽を多様化することと、各人の孤独感を解消すること」と結論付けています。

私は長年、依存問題に取り組む中で「余暇の過ごし方」や「仲間の存在」が依存問題に悩む方の大きな生活改善につながることを実感しており、この研究結果に大いに納得しました。

現在、地方では行政が行う様々な電話相談がありますが、孤独に焦点を当てたものはありません。「いのちの電話」がそれに当たるのかもしれませんが、自殺を考える程ではなくても、「寂しい」「誰かと話したい」といった段階で気軽に電話できる機関が必要です。新たに「ぬくもりコール」という孤独を感じている人が気軽に電話できる機関を新設することを提案します。

その方と話をする中で、その方と相性の良さそうな趣味を提案し、事前に登録している県民サークルやボランティア団体(代表者はマイナンバー登録が必要であろうと考えます)等のコミュニティに繋げて行くことは出来ないでしょうか。例えば、「街歩きの会」や「囲碁の会」「写真の会」「手芸の会」等々。会の平均年齢や雰囲気などを事前に代表者から聞き取りをしておいて、電話をかけてきた方との相性を考えて提案・紹介をする。サークルに所属することで孤独感が解消され、趣味も見つかり生きがいの創造にも繋がるのではないのでしょうか。

今後の日本社会は少子高齢化により「寂しいお年寄り」ばかりになります。未婚率の上昇、離婚率の上昇、高齢化で伴侶に先立たれる等で孤立する方が増えるからです。日本は、国連が発表する 2020 年度世界幸福度ランキングで 62 位 (156 カ国中) です。年々、順位が下がる傾向にあります。

「ぬくもりコール」が成功すれば、高度幸福化社会に向けた一隅を照らす活動になるかもしれません。

ワンダーポート利用案内

1. 入所カリキュラム

東京パチンコボランティア基金より、ワンダーポートへの新規利用者(入所者)を対象にした給付金助成制度(1人15万円給付)が実施されています。お気軽にお問合せください。

(1) 生活づくりステージ (1ヵ月～) 内容規則正しい生活とミーティングやスポーツにより健康な生活を取り戻すことを目的とします。

(2) 社会参加ステージ(生活づくりステージ修了後6ヶ月～1年)

昼間は仕事(アルバイト)をします。アルバイトで得た収入はワンダーポートに必要な費用にあてるので、ご家族の負担が軽減されます。資格取得の勉強などもできます。

ワンダーポートの寮では、2DK～3LDKのアパートで2人～3人での共同生活となります。

入所費用について

(1) 寮費：50,000円/1ヶ月(共益費8,000円込)

(2) 利用費：無料

(3) この他に、食費、イベント交通費などの実費が必要で、これらを合計すると約13万円～14万円/1ヶ月の費用がかかります。

(生活保護を受けている場合は、上記とは利用費が異なり生活保護の金額の範囲内で利用が可能です。)

2. 相談支援(無料)

個別にお話をおうかがいして、必要な助言を行います。

3. 通所支援(無料)

通所により、必要な支援を提供します。

4. 利用手続き、問い合わせ

045-303-2621 までお気軽にお問合せください。

2021年5月利用者報告

① 利用者数

	男性	女性	合計
継続	39	2	41
新規	0	0	0
合計	39	2	41

② 入所者の年齢

10代	20代	30代	40代
0	5	2	2
50代	60代	70代	合計
0	0	0	9

内

入寮者 9名

家族個別相談のご案内（無料）

毎週金曜日

1回の相談日につき3件受付（10:30～、13:30～、15:30～）

第1金曜日 稲村厚(司法書士) 第2～第5金曜日高澤和彦(精神保健福祉士)

（変更があります）

予約は1ヶ月前の午前10時から受付いたします。

コロナ感染拡大を考慮してオンライン相談にも応じています。お気軽にご相談ください。

お問い合わせ TEL 045-303-2621 ワンデーポート

依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会

【日時】2021年7月4日(日) 13時30分～15時30分

【テーマ】支援者が「ギャンブル」にとらわれない支援の実際～いくつかの事例を通して～

【講師】 中村 努（ワンデーポート／施設長）

高澤 和彦（浦和まはろ相談室／精神保健福祉士）

【参加費】 無料

【対象】 依存の問題の支援に携わる（携わりたい）方（依存問題を持つ本人、家族向けではありません）

<http://problemgambling.namaste.jp/index.html>（申し込み）